

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2017

4月

No.142



特集 P2・3

平成29年度
事業計画と予算

第3次地域福祉推進計画

支え合い
ふくしプランを
全力で推進!

ひ孫と
いっしょ

千種町 奥西山

シリーズ141

土井 ひさゑさん(91歳)

○健永くん(3ヶ月)

土井 康平・悠里

■長男

第3次地域福祉推進計画

支え合い

ふくしプランを

全力で推進！



高齢者の閉じこもり、認知症、うつなどを予防することを目的に、市の委託を受けて、通所型サービスA2（ミニデイサービス）に取り組みます（千種保健福祉センター）

宍粟市社会福祉協議会では、3月30日（木）に開催した「第32回評議員会」において、平成29年度事業計画ならびに予算を可決しました。
今月号では、平成29年度の重点事業、資金収支予算の概要についてお知らせします。

本年度は、平成28年度に策定した「宍粟市社協第3次地域福祉推進計画（愛称：支え合いふくしプラン）」の2年目となります。計画の実現に向けて掲げた4つの推進目標のもと、諸活動を全力で推進します。

また、「第3次地域福祉推進計画を進める会」を開催し、計画の進捗状況を把握するとともに、成果や達成度、問題点など話し合います。

① いざいざ時困らない
地域をつくる

○旧町域や校区、自治会など、それぞれ地域に合わせた「支え合いの地域づくり」を進めるための研修会を開催します。

○福祉連絡会で見守りが必要な方の情報共有を図る話し合いの場として「地域見守り会議」の定着を進めます。

○災害ボランティア養成講座の受講者等でグループ化を図り、災害救援活動についていっしょに取り組めます。

② みんなで支え合える
つながりをつくる

○「福祉学習プログラム」を作成し、学校・地域・企業等で福祉への理解や関心を高める機会を作ります。

○個別ニーズに即した柔軟な「生活支援サービス」を生み出し、新たな支え合いの仕組みとして充実を図ります。

○生活支援の役割を担うボランティアの養成やスキルアップの研修を計画し、活動が継続できる基盤整備を進めます。

③ 自分らしく生活できる
仕組みをつくる

○専門的な相談の受け皿として弁護士による「無料法律相談」を実施し、日常生活の中での困りごとの解決を図ります。

○婚活応援団である結婚相談員活動や、結婚促進に向けた出会いの場の提供や婚活セミナー等を実施します。

○孤独になりがちな高齢者の見守りや生活支援につなぐ「配食サービス」を全支部で週2回実施します。（6月～）

④ 社協を強くするための
組織基盤をつくる

○4つの支部で進める事業や取り組みを整理し、支部の特徴を活かした「支部推進活動計画」を作成します。

○社協の活動財源を応援いただく「新たな賛助会員の発掘」や広報紙の広告収入など自主財源の確保に取り組みます。

○支え合いふくしプランの重点事業を推進するため、理事と職員による「役職員業務研究会」を実施します。

◆平成29年度資金収支予算書

(単位:千円)

勘定科目		本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	差引増減額 (A) — (B)	摘 要	
事業活動による収支	収入	会費収入	13,230	13,410	△ 180	社協一般会費（6月）、賛助会費（2月～3月）
		寄附金収入	10,690	13,680	△ 2,990	善意銀行預託金
		経常経費補助金収入	71,923	72,009	△ 86	市、県からの補助金収入
		受託金収入	34,016	39,513	△ 5,497	市から委託されたミニデイサービス事業等の受託金収入
		貸付事業収入	200	350	△ 150	低所得の方への小口貸付償還金
		事業収入	11,880	20,792	△ 8,912	参加費収入、利用料収入等
		共同募金配分金収入	10,734	11,197	△ 463	平成28年度共同募金による配分金 7,334千円 平成29年度歳末たすけあい募金による配分金 3,400千円
		負担金収入	1,370	1,225	145	老人クラブ連合会、福祉団体からの負担金
		介護保険事業収入	208,445	218,784	△ 10,339	介護保険事業による収入（デイサービス、ヘルプサービス等）
		障害福祉サービス等事業収入	22,051	21,418	633	障がい者自立支援事業による収入（障がいホームヘルプ、相談支援）
		受取利息配当金収入	855	885	△ 30	預金利息
		その他の収入	870	7,451	△ 6,581	退職手当積立基金預け金差益収入、印刷代他雑収入
		事業活動収入計（1）	386,264	420,714	△ 34,450	
	支出	人件費支出	289,986	325,976	△ 35,990	役員報酬、職員人件費
		事業費支出	39,115	54,117	△ 15,002	社協事業全般に関する事業費
		事務費支出	33,704	39,010	△ 5,306	印刷製本費、通信運搬費、事務機器・車輛リース料、事務消耗品費等
		貸付事業支出	300	330	△ 30	低所得の方への小口貸付金
		助成金支出	19,519	14,750	4,769	自治会福祉連絡会、ボランティアグループへの助成 敬老会実施のための助成金等
		負担金支出	319	319	0	全社協・県社協負担金、その他事業の負担金
		利用者負担軽減額	94	108	△ 14	低所得世帯に対する介護保険サービス等利用料軽減額
		その他の支出	0	56	△ 56	退職手当積立基金預け金差損
		事業活動支出計（2）	383,037	434,666	△ 51,629	
	事業活動資金収支差額（3）＝（1）－（2）		3,227	△ 13,952	17,179	
施設整備等による収支	収入	固定資産売却収入	1,000	0	1,000	会用車売却収入
		施設整備等収入計（4）	1,000	0	1,000	
	支出	固定資産取得支出	150	367	△ 217	デイサービス用介護器材の購入
		施設整備等支出計（5）	150	367	△ 217	
	施設整備等資金収支差額（6）＝（4）－（5）		850	△ 367	1,217	
その他の活動による収支	収入	その他の活動による収入	10,545	23,597	△ 13,052	全社協退職積立払戻金
		その他の活動収入計（7）	10,545	23,597	△ 13,052	
	支出	積立資産支出	50	50	0	積立預金受取利息分を積立
		その他の活動による支出	8,537	8,728	△ 191	職員退職手当基金への積立
		その他の活動支出計（8）	8,587	8,778	△ 191	
	その他の活動資金収支差額（9）＝（7）－（8）		1,958	14,819	△ 12,861	
予備費支出（10）		500	500	0	予備費	
当期資金収支差額合計（11）＝（3）＋（6）＋（9）－（10）		5,535	0	5,535	総収入－総支出 5,535 千円の黒字	
前期末支払資金残高（12）		155,033	174,772	△ 19,739	平成 28 年度分の繰越金	
当期末支払資金残高（11）＋（12）		160,568	174,772	△ 14,204	平成 29 年度末の資金残高予定額	

平成29年度予算の特徴

○ミニデイサービス事業を新たに受託

穴栗市からの受託事業として取り組んできた「通所型介護予防事業(二次予防)」と「介護予防普及啓発事業(一次予防)」が終了し、平成29年4月から新しい総合事業が実施されることにより、穴栗市が高齢者の閉じこもりや認知症などを予防することを目的に新たに実施する「通所型サービスA2(ミニデイサービス)事業」を受託します。

○福祉有償運送事業と介護員養成研修事業が終了

本会の独自事業として実施してきた「福祉有償運送事業」について、市の外出支援サービスが人工透析の通院にも利用できるようになったことや、赤字額が大きく本会の経営上の課題となっていたことから、平成28年度末で事業を終了しました。

また、「介護員養成研修事業」については、ここ数年受講の申し込みが定員の半分である10名程度で、採算上の課題が生じていたことから、同じく平成28年度末で終了としました。

○介護保険事業はより効率的な運営を目指す

訪問介護(ホームヘルプ)事業について、訪問計画や記録様式の見直しを行うなど、より効率的な事業運営を目指すとともに、重度な利用者にも対応できるよう、医療行為や同行援助等についての資格を取得し、新たな利用者の獲得につなげます。

○会用車の配置を見直し、台数を削減

「福祉有償運送事業」や「通所型介護予防事業」等が終了したことから、平成28年度当初54台あった会用車について、マイクロバスを売却するなど、47台にまで削減する計画です。

※本年度の事業計画書、予算書の詳細については、本会ホームページ、本部・各支部の窓口でご覧いただくことができます。ご遠慮なくお申し出ください。

やさしさ

高齢者に笑顔を届けるお弁当

配食サービス説明会

山崎では、昭和56年から配食サービス事業が始まり、現在毎週月曜日と第2・4木曜日(週1.5回)にひとり暮らし高齢者など見守りの必要な方へお弁当を届けています。

これらの活動をさらに充実させるため、6月から実施曜日の変更や、週2回のサービス提供に向けて調整しています。

3月7日(火)に、調理ボランティア代表の皆さまに進捗状況を報告し、それを踏まえて、3月22日(水)に、調理・配食ボランティアを対象にした「配食サービス説明会」を開催しました。当日は35人が参加し、説明の後グループに分かれて、日頃のボランティア活動や課題について話し合いを行いました。配食サービスは、生活の改善と合わせて、高



参加者からは、「いつも喜んで待ってられる。回数が増えることは良いこと」「無理な時もあるが、出来るだけ協力したい」などのご意見をいただきました(3/22穴栗防災センター)

齢者の見守り活動や生活支援につながる重要な役割も担っています。これからも、高齢者に笑顔を届けるお弁当作りに取り組んでいきますので、引き続きボランティアのみなさまのご協力をお願いいたします。

(山崎支部 山本めぐみ)

ここ来ると心が和むわ

「福知歌おう会」は憩いの場

3月12日(日)、一宮町福知の中本貞幸さん宅でカラオケを楽しむ集まりがあるとの情報を民生委員さんからお聞きし伺いました。

そこではテンポのよい歌謡曲と歌声が聞こえ、「福知歌おう会」のみなさんが手拍子をしたりお茶を飲みながら、カラオケを楽しまれて

いました。

歌おう会は、福知にお住まいの歌好きが17人が□□ミで集まり、花見や新年会では食事にも出かけているとのこと。

「近所の人が気軽に寄れる家になったらええなと思ってるんや。歌と話を楽しくするだけやけどな。仲間は太勢おったほうがええ」と中本さんは話されます。



「大好きなカラオケを近所の方と楽しめて嬉しいわ。あなたの地域でもいかがですか?」と中本さん(左から2番目)

「寄れる者が都合のええ日に集まるんや」「ここに来たら仲間会えて、ちょっとした話や相談もできて心が和むわ」と終始笑顔が絶えません。歌おう会は、気軽に寄れる憩いの場で、お互いの見守りにもなっている宝物です。

(二宮支部 上川あゆみ)

いのち

は
が

売切れ御免! 齊木名産わさび漬け

齊木3区わさび加工グループ

3月17日(金)、
齊木3区コミュニティ
センターを訪れ
ると、白い割烹着姿
の女性たちが忙しそ
うに作業されていま
した。

わさび特有の香り
が広がる中、笑顔で
迎えてくれたのは、
「齊木3区わさび加
工グループ」のみな
さんです。

齊木自治会では自
生しているわさびに
目を付け、平成16年

から村おこしの
一環としてわさ
びの栽培に取り

組まれています。そして平
成19年から加工グループの
みなさんが「わさび漬け」
や「わさび寿司」に調理加
工し、齊木の新たな名産品
として販売しています。

代表の栗林節子さんは、
「おばあちゃん6人であ
げられています。足が悪か
つたりして全員はできない
ですが、朝は約20kgのわさ



ピリッと辛く味わい深いわさび漬けは絶品。みなさん
ぜひご賞味あれ(齊木3区コミュニティセンター)

を収穫、そしてその日のうちに
加工します。この時期は大忙し
です」と話されます。

加工した商品は道の駅みなみ
波賀で販売され、今ではすぐ
に売切れるほどの人気商品と
なっています。

村おこしとして始まったこの
取り組みは、地域の人材や拠点
を活かし、齊木の新たな名産品
を生み出すとともに、地元の資
源を活用したコミュニティビジ
ネスとして、携わる方々のやり
がいや生きがいにつながってい
ます。

(波賀支部 田中祥仁)

13自治会だから出来る共有の場

3月17日(金)、千種保健福
祉センターにおいて、各自治会
の福祉連絡会代表者が集まり、
平成28年度の取り組みを振り返
りました。

当日は、社協が進めてきた
小地域福祉活動をスライドで紹
介し、代表者のみなさんにご意
見をいただきました。

「百歳体操を見守り活
動の一つとして取り組ん
でいきたい」「自治会の
範囲が広いでな。集会所
単位で見守りもやってい
きたい」との声が聞かれ、
見守りへの意識が高まっ
ていることが伺えまし
た。

岩野辺自治会長の平瀬
恒雄さんからは、「福祉
連絡会の定着に向けて、
社協にはお世話になって
感謝している」との言葉
をいただきました。

また、3月に発行した
「ちくさかわら版」につ



かわら版に掲載の「作業所あゆみ(就労継続支援B型)」の活動か
ら障がいについて理解を深めました(千種保健福祉センター)

いて、紙面を見ながら様々な感
想が聞かれるなど、有意義な時
間となりました。

このように、代表者会議は、
千種町全13自治会の福祉活動や
情報が共有できる場となってお
り、29年度も、その役割を果た
せるよう充実を図ります。

(千種支部 横山洋子)

福祉連絡会代表者会議

ち
くさ

「にこにこクラブ」が交流! ～“飲みニケーション”で親睦～



配食活動の楽しさと大切さをみんなで共有(山水)

3月27日(月)、波賀配食ボランティアグループ「にこにこクラブ」の交流会が行われました。

にこにこクラブの会員は現在22人です。普段は顔を合わす機会がない会員同士の交流や意見交換の場として、今回は、男性主体のグループならではの「飲みニケーション」で親睦をはかりました。

意見交換では、「感謝の言葉をいわれると励みになる」「強引に誘われて始めたけど、やってよかった」など活動から感じた思いや訪問先でのエピソードを一人ずつ語りあい、思いを共有しました。

また、利用者のみなさんがボランティアだと一目でわかるように夏場に着れるチョッキを作ろうと話合いました。(波賀支部 田中祥仁)

宍粟市福祉支援ネットワーク連絡会 福祉の現場で求められることって?



グループごとに意見を交換(一宮保健福祉センター)

3月18日(土)、宍粟市福祉支援ネットワーク連絡会主催の研修会が行われ37人が参加しました。

同会は、市内障がい者・高齢者福祉施設、NPO法人、商工会、行政の17団体で構成されています。

当日は、専門職として自らの実践を振り返り、日常業務に生かす視点を改めて考えたい、との思いで福祉の現場で働く者の職業倫理について学びました。

参加者からは、「利用者の自己決定を尊重し、思いに寄り添った支援をしていきたい」「職場の理念や横のつながり、そして自分の心の健康を大切にしたい」といった声が聞かれ、有意義な時間となりました。

これからも、同会では個々の活動の発展と宍粟市の地域福祉のために情報交換や研修会を行っていきます。(本部 上川あゆみ)

宍粟から追悼 ～東北へ届け～

東日本大震災から6年。宍粟市ボランティア連絡会では震災で亡くなられた方々の追悼と被災地の復興を祈願し、市内各地で追悼行事を行いました。

一宮保健福祉センター中庭では、ペットボトルの灯ろうで「3.11」の文字をつくり、午後2時46分の発災時刻にあわせて黙とうを行い、被災地の復興を祈りました。



一宮保健福祉センター

3.11を忘れない



宍粟防災センター



メイプル福祉センター



千種保健福祉センター